

単元名 【旧】版から広がる世界(絵)

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 彫りや刷りの効果を確認めながら、表し方を工夫することができる。
 (2) 今までに学習した版づくりの経験を基に、自分の思いを表す画面の構成を考えることができる
 作品を見せ合い、表したかったことなどを話し合っ表現や意図の特徴をとらえることができる
 (3) 版による表現方法の特徴を理解し、表し方に関心をもち、自分の思いを表すことに取り組もうとする。

標準的な展開例

06080305_001

【準備等】 版木、刷り紙（一版多色木版の場合は主に黒の色画用紙）、版画用具一式、彫刻刀、水彩用具一式、作品カード、トレーシングペーパー、カーボン紙、新聞紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書の参考作品を見て課題をつかみ、作品の構想を練る。 ○表現方法を理解する。</p> <p>★自分の思いに合った版画をつくろう</p> <p>○スケッチをし、刷り方の構想を練る。</p> <p>2 スケッチを基に、下絵をかき、版木に写す。 ○下絵をかく。</p> <p>○カーボン紙を使って、版木に写す。</p> <p>3～5 下絵にそって、版を彫り、刷る。</p> <p>○彫刻刀の種類と正しい彫り方を確認する。 ・刀の種類 ・刀の持ち方、支え方 ○安全に留意しながら彫りを進める。 ・彫るところと残すところ。 ・彫る順番 ○本刷りをする。 ・彫り進み木版の場合は、彫りと刷りを繰り返しながら色を重ねていく。</p> <p>6 印象に残ったことを話し合い、友達の作品を鑑賞する。 (言語活動) ○作品に対する思いや工夫したことを作品カードに記入し発表する。</p> <p>○友達の作品のよさをみんなで話し合う。</p>	<p>・教科書 5・6下 P.42, 43</p> <p>・教科書の参考作品を見せ、彫り進み木版の表現や刷ったものに色を足す表現について説明する。</p> <p>・これまでに学習した紙版画、木版画、一版多色版画などを振り返って、学習の見通しをもつ。</p> <p>・スケッチに色鉛筆で色を塗らせて、大まかな感じをとらえさせる。</p> <p>・刷り方については、版の色を変えたり、刷り重ねたりするなど、版画特有の何枚も刷れるよさに注目させるとよい。</p> <p>【評】活動を通して、版による表現や色の着け方に興味をもち、心に残った場面をスケッチしている様子から「関心・意欲・態度」を評価する。</p> <p>・下絵はスケッチを基に画面構成を考えさせるが、細くなりすぎないように注意する。</p> <p>・一番表現したいものが目立つように、周りの物との関わりをとらえさせる。</p> <p>・カーボン紙を使って写すときに、下絵を裏表逆にすると、完成した絵が下絵と同じ向きになることを知らせる。</p> <p>・木版画と紙版画を併用して表現する場合はここで、紙版画の準備もする。</p> <p>・彫刻刀は切れ味のよいものを準備させる。</p> <p>・それぞれの彫刻刀の特徴や使い方を再確認させ、安全にも留意させる。</p> <p>・ばれんの使い方を師範する。</p> <p>・彫り進み木版の場合は、児童が平行して活動できるように、インクやローラーなどを配置する。</p> <p>・刷り上がった作品に彩色する計画の児童は、十分に乾燥させた後で行わせる。</p> <p>【評】作品を通して、彫りや刷りの効果を確認めながら、表わし方を工夫する「表現の技能」を評価する。</p> <p>・作品カードを活用して、自分の作品への思いを伝えさせる。</p> <p>【評】活動を通して、表現や意図の特徴をとらえる「鑑賞の能力」を評価する。</p>

【 備 考 】

この単元では、自分の思いに合った版づくりや刷り方を選んで、試しながら版に表す活動をする。版づくりでは彫りの効果を考え、彫刻刀を使い分けたり、彫り分けたりすることが大切である。刷りでは彫り進み木版で表したり、刷った後に色を付けたりするなど自分の思いに合った表現になるように試しながら進めることが大切である。言語活動では、友達の作品に対する思いや版作りの工夫、刷り方の工夫に注目させるとよい。